

二の問題の解き方

未来への架け橋

一の問題の解き方

福岡県立高校入試問題を活用した授業改善・学習資料(国語)①

問題文から「その優美を生活と一体にする」が本文中でどう紹介をされているかを文字制限の中で説明しなければならないことをつかみます。

本資料の活用の仕方

各問題について、次のA B Cのいずれかの内容を解説しています。

- A 問題を解くときに必要な知識
B 問題を解くときの読み方や表現の仕方
C 国語科の学習に必要な考え方や学び方

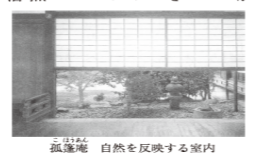
問題文から【大会ビジョン】、美香さんと祖父の会話を読み、ア、イに当てはまる語句、〰線の内容に近い四字熟語を答えなければならないことをつかみます。

①まず、「その優美を生活と一体にする」とはどういうことかを考える際に、「その優美」とは何かについて考えます。「その優美」とは、すぐ前の一文に、「……庭の発祥は神としてあがめられた自然美、すなわち優美そのもの……」とあるので、「その優美」とは、「神としてあがめられた自然美」であることをつかみます。

②次に、文頭の語句に着目し、本文を4つの段落に分け、文章の展開を捉えます。本文のAでは、「日本と欧米諸国の住居の違い」、Bでは、「日本の住居のしくみ」について、もともと自然美を享受するのに適した日本の住居に、日本人はさらに自然美と一体となる工夫を施してきたこと、「優美」というものが日本人の生活と一体となっていること、Cでは、「住居の庭」について、庭も自然の姿を写していること、庭の池の中島から庭の発祥は、神としてあがめられた自然美であり、すなわち「優美」そのものであることが述べられています。そして、Dでは、「日本の住居は、その優美を生活と一体にするための一種の装置」であることが述べられています。

説明的な文章において、筆者の考えを自分の言葉に置き換えて、わかりやすく説明する力をみる問題

問題文: 日本は温暖な気候であること、島国であることから水が豊かで良質な樹木に恵まれたことにより、古来から加工が容易でかつ柔軟な強度をもつ木造による、柱と梁の構造の建築物が造られてきた。これに対して、欧米諸国は良質な樹木を大量に得ることが難しく、土を固めて焼いたレンガや、石造による組積造がのびと発達したとみられる。このように建築材の相違は、その居住空間にも強く影響し、たとえば柱と梁による日本住宅は開口部を容易にとることができた。それが幸い、外部と内部が必然的に関係をもち、そこでそれぞれを媒介する仕掛け、すなわち京都の町家などにみられる格子戸のような壁とも窓枠ともつかない曖昧な仕切りや、縁側のような外と内もつかない間領域などが生み出された。これによって日本人の住居は、外部の景に開かれたようになつたのである。一方、欧米諸国は組積造を中心とした壁構造体であったため、大開口をとることが難しく、おのずか内部と外部の関係が希薄となった。そのことが、欧米で「インテリヤ」という概念が早くから生み出される原因となつたとみられる。外部に開かれた日本の住居は、こうして自然美を十分に享受できるようになった。そして、開口部から四季のいろりや、自然と一体となつていくことができた。自然と室内は開かれたものとなつた。開口部からは新緑や花の香りが風とともに流れ込み、木々のさく音、鳥の鳴き声に響かされた。日本人が自然の中に美を見いだした要因の一つは、この開放的な日本の住居のしくみがあつたといえるであろう。日本の住居の特徴の一つである障子は、白紙を格子戸に貼つただけのものであり、かつて紙の障子一枚で自然に接していた。この障子は、ほかの自然のいろりどりを室内に反映させた。これは、開口部をとりつつも、自然と一体となるための工夫である。木目を生かした白木の柱や、皮つきの自然木そのものの床、土壁など、日本考のつくりは、いかに自然と一体となるかをめざしたものであつた。欧米では床と離れた椅子に座り、ベッドに寝るが、日本では畳に座し、畳に寝る。こうした態度も、いかに地面に近づきかという自然と一体となつていくことを思ひ知るのである。もともと外部に開かれ、自然美を享受するに適した日本の住居に、日本人はさらに自然美と一体となる工夫を施してきたことがわかる。ここに「優美」というものが、日本人の生活と一体となつたのであることを思い知るのである。一方、住居の庭についても日本では古来、自然風景を庭園と呼ばれるもっぱら自然を写す作庭が主流であつた。万葉集などを見ても「山一あるは山一呼ばれた庭にばは詠まれては、平安時代に著された庭作りのテキスト「作庭記」にも「生得の山水をおもはて、その所はさこそありしかと、思ひよせくたつたべなり」と記され、さらに「入のたたる石は、生得の山水には、まさるべからず」とあつたように、自然の姿を写すかきり写すことが説かれていた。これは神の宿る依代であつた。それが枯山水と呼ばれる石組の庭へと発展したのである。日本における庭園の起りは磐座であるといわれ、これは神の宿る依代であつた。それが枯山水と呼ばれる石組の庭へと発展したのである。このようにみていくと、庭の発祥は神としてあがめられた自然美、すなわち優美そのものであることが明らかとなる。そして日本の住居は、その優美を生活と一体にするための一種の装置といつてもよいであろう。問二本文中に「その優美を生活と一体にする」とあるが、どういふことか。二十五字以上、三十五字以内で説明せよ。



五箇山 孤蓬庵 自然を反映する室内

③最後に、「生活と一体にする」について考えます。その前後の語句に着目すると、「日本の住居は、その優美を生活と一体にするための一種の装置」とあるので、Cで述べられている「住居の庭」についてだけでなく、Bの「住居のしくみ」についても述べていることが分かります。Bから、「住居に自然美と一体となる工夫を施してきたこと」、「住居は、優美が日本人の生活と一体となったもの」であることを読み取ることができます。そこで、「生活」を「暮らし」、「一体になる」を「一つにする」等の自分で考えた語句に置き換えます。したがって、「その優美を生活と一体にする」とは、「神としてあがめられた自然美と日本人の暮らしを一つにするということ」のように説明することができます。

Point: 説明的な文章の内容を正確に理解するためには!
① 文章の中心的部分(伝えたいこと、伝えるべきこと)と付加的な部分(具体例や引用等)、事実と意見(…ている。…だろう。)などの文末表現を読み分け、筆者の主張を捉えます。
② 指示する語句の指す内容(原則として、指示する語句の前に書かれています。)を理解するとともに、接続する語句や文頭の言葉等に注目し、文と文、段落と段落の関係(並立「また」、説明「すなわち」等、また、具体「たとえば」と抽象、根拠と結論「このように」等)を捉えます。何度も出てくる言葉も話題の中心になるので着目して読みましょう。
※ 指示する語句や接続する語句に線を引きながら読み、文章の構成や展開を捉えましょう。

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力をみる問題

大会ビジョン: スポーツには世界と未来を変える力がある。1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来へのア)」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。
※オリンピックパラリンピックマーク
(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 ホームページによる。一部改変)
美香さん: 2020年が楽しみだね。3つの基本コンセプトがあるんだね。私は同じホームページの続きに「共生社会」という言葉を見つけたよ。
祖父: みんなが共生できる社会はずばらしいね。1964年のオリンピックを見て、世界中がスポーツの感動を共有して、みんなが一つになつたように感じたよ。その頃、東京では首都高速道路や東海道新幹線が開通するなどして、めざましく都市機能が発展し、世界に向けて戦後のイをアピールできたんだよ。
①
美香さん: そうなんだね。2020年には、災害からイしている力強さを、世界に見せることができたらいいな。②

Point: 話や文章の中で適切な語句を使えるようになるためには!
① 新しく学習した言葉や日常生活の中で出会った言葉、本や新聞などに出てきた分からない言葉を書き留め、辞書で意味を調べるだけでなく、類義語や対義語を調べたり、短文を作ったりしましょう。
② 話したり、文章を書いたりするときには、伝えたいことを伝えるために、使用しようとする語句の他に適切な表現がないか、相手や目的に応じて、複数の語句の中から、どの表現が最もふさわしいかを考えて使いましょう。
※ 学習した語句は日常生活で意識して使いましょう。

四字熟語の意味を理解しておくことが大切です。
1 日進月歩...日に月に間断なく急速に進歩すること
2 大器晩成...大人物は才能の表れるのは遅いが、徐々に大成するもの
3 一進一退...進んだり戻ったりすること
4 温故知新...昔の物事を研究し、吟味して、そこから新しい知識や見識を得ること。
1が正答です。

アは、「未来につなげよう」を「未来へのア」と言い換えることなので、「つなげる」と同義の熟語を選択すればよいことがわかります。

語句の意味を理解しておくことが大切です。
1 推進...推し進めること
2 統率...多くの人をまとめて率いること
3 融合...とけて一つになること
4 継承...うけつぐこと
4が正答です。

イは、「ふたたび盛んになること」という意味で、①「世界に向けて戦後のイをアピールできた」②「災害からイしている力強さ」に共通して入る語句を漢字二字で書けばよいことがわかります。

例えば、「復興」、「再興」等が考えられます。

〰線部分の「めざましく発展」という語句に着目します。

「めざましい」は、「すばらしい、驚くほど」「発展」は、ここでは、「栄えゆくこと、勢いがのび広がること」などの意味があります。

# 未来への架け橋

## 福岡県立高校入試問題を活用した授業改善・学習資料(国語)②

### 四の問題の解き方

問題文から第一八六段と第一八七段の内容について会話を手掛かりにしながら捉え、共通する考えをまとめなければならないことをつかみます。

第一八六段は「馬に乗る達人」について具体的に、第一八七段は「道の人(専門家)」について抽象的に書かれていることを把握します。この二つの段に書かれている共通点を探します。

- 第一八六段**
- 馬乗り=達人、名人、名手
  - 危険性を考え、準備や点検を怠らない。
- 第一八七段**
- 道の人=専門家
  - 素人に必ず勝る。
  - 油断せず慎重で軽率にやらない。

佐藤さんが読んだ本は、碁や将棋のプロについて述べています。

- プロ
- 素人との勝負に勝つ。
- 心構えが圧倒的に違う。
- プロの慎重さはくまなく張りめぐらされたコンピュータのようなもの。

これらのことから、達人、専門家、プロは、慎重さによって成功していることを読み取ることができます。したがって、第一八六段と第一八七段に共通している考えは、「何事にも、徹底した慎重さをもつことが大切である」ということです。

「怠らない」、「慎む」を会話文の「慎重さ」などに置き換えて、指定された字数で書きます。

### 三の問題の解き方

問題文から、本文のリーチ先生の3か所の顔の描写①「リーチの顔を暗い雲が次第に覆っていった」②「リーチの顔に光が差している」③「リーチの顔がちまほころんだ」に着目して読み、リーチ先生の心情の変化を読み取らなければならないことをつかみます。

登場人物の心情を読み取る際には、どの叙述からそういえるのか、具体的な根拠を示すことが大切です。

①「リーチの顔を暗い雲が次第に覆っていった」の「暗い雲」から「何かよくないこと」を想像します。「次第に覆っていった」は「だんだん広がって包み込んでいった」という意味です。会話文の「その気持ちからだんだん高まっている」からも推測できます。このことから、ここでは、「よい作品が一つも見つからないかもしれないという不安や焦りが高まっている」という気持ちを読み取ることができます。

リーチ先生が、「よい作品が見つかったかもしれないという期待感や希望」をもったことは、亀乃介を見た②「リーチの顔に光が差している」という描写から読み取ることができます。①の「暗い雲」から「光が差した」に変化したということは、「よいことが起きている」ことを想像することができます。

### 本資料の活用の仕方

各問題について、次のA B Cのいずれかの内容を解説しています。

- A** 問題を解くときに必要な知識
- B** 問題を解くときの読み方や表現の仕方
- C** 国語科の学習に必要な考え方や学び方

### 四 複数の資料を読み、共通する考えについて、指定された字数で自分の考えをまとめる力をみる問題

南さんと佐藤さんの会話

南さん 「第一八六段に、①この用途を忘れるのを馬乗りとは申すなりとあるけれど、辞典で調べてみると、用意は「心構え」という意味なんだね。「馬乗り」も、たまたま馬に乗る人というふうな意味だね。」

佐藤さん 「私もそう思うよ。「乗馬のプロ」ということだね。」

南さん 「第一八七段の『道の人』の『道の人』の『道の人』は、たまたま道の人というふうな意味だね。」

佐藤さん 「私もそう思うよ。「道の専門家」ということだね。」

南さん 「その文の後の部分に書かれている。『巧みな素人に必ず勝る。』とあるね。」

佐藤さん 「私もそう思うよ。『巧み』は、たまたま巧みというふうな意味だね。」

南さん 「そうか。ここに述べられているような『プロ』ならば、具体的などう行動すべきか、ということについて書いてあるのが、『プロ』の部分だね。」

南さん 「そうか。ここに述べられているような『プロ』ならば、具体的などう行動すべきか、ということについて書いてあるのが、『プロ』の部分だね。」

南さん 「そうか。ここに述べられているような『プロ』ならば、具体的などう行動すべきか、ということについて書いてあるのが、『プロ』の部分だね。」

### 三 場面の展開や登場人物の描写、言動に注意して読み、登場人物の心情について、指定された字数で自分の考えをまとめる力をみる問題

前略

「カメちゃん、リーチに呼びかけられて、亀乃介は、うつむいていた顔を上げた。顔に汗を流したせいで、リーチがすぐそばに佇んでいた。両手に、小さな壺を抱えている。『……これを見てください。』リーチが差し出した壺を、亀乃介は両手を伸ばして受け取った。それは、青磁の壺だった。見たこともないような深みと豊かさのある、美しい青磁色。表面にはざらつきがまったくなく、つややかな肌は、朝日を反射して白い光を放っている。『これは……』亀乃介は、震える瞳を上げて、リーチを見た。『リーチの顔に光が差しているのがわかった。』柳が歩み寄って、『どれ』と、亀乃介に向かって手袋をした両手を差し出した。そして、壺を受け取ると、朝日が降り注ぐ中にかざして見た。柳が目の前に掲げた壺を、リーチと亀乃介は、じと見つめた。まるで、翡翠色の水鳥のようだった。柳の手から、澄んだ夏空へと飛び立ってしまいうような、みずみずしいと活力とが、その壺には宿っていた。柳は、リーチのほうを振り向くと、口元に微笑を浮かべて、ひと言、言った。『一、好いね。』リーチの顔が、たちまちほころんだ。」

(原田マハ「リーチ先生」による。一部改変)

Point: 登場人物の心情を深く読み取るには!

① 文章全体から登場人物の描写(言動、表情、様子、など)を見付けます。また、情景描写に着目することも大切です。例えば、「朝日が降り注ぐ中」はよい状況、「鉛色の空の下」はよくない状況が想像できます。

② 着目した描写の前後を読み、場面や登場人物の状況を捉えます。本文の「自分のせいだ」と繰り返す亀乃介の心情は、後の「リーチに進言できなかったことが悔やまれた」から「リーチを止められなかった自責の念」と読み取れます。※根拠を出し合い、友達と考えを交流すると自分の考えが広がり、深まります。

③ 「リーチの顔がちまほころんだ」というのは「リーチ先生の表情がすぐに和らいだ」という意味です。和らいだ理由は、柳宗悦が一言、「一好いね」と言ったからです。尊敬する朋友の柳に認められたことで、よい作品ができたという確信をもつことができ、作品に対する満足感や達成感につながったことを読み取ることができます。

「よい作品」という語句を用い、柳に認められたこと、作品に対する満足感や達成感があることを、会話文の書き方を参考にして、指定された字数で書きます。

第一八七段(現代語訳) あらゆる道の専門家が、たとえ専門家の中では未熟であるといっても、素人の中で上手な人と並んでみた時には、必ずそれより勝れている。これは、(専門家が、)油断なく用心して、軽率にやらないのと、(素人が、)ただ自由気ままであるのが同じでないからである。芸能の特別に型のある動作だけでなく、大方のふるまいや心の持ち方も、不器用で慎重なのは、成功のもとである。器用であって勝手気ままなのは、失敗のもとである。

第一八六段(現代語訳) 吉田と申す乗馬の名手と言いましたことには、「どの馬もみな、手ごわいものである。人間の力は、馬と張り合うことはできないものだ」と知るがよい。これから乗ろうとする馬を、まず十分に観察して、(その馬の)強い所と弱い所とを知らなくてはならない。次に、轡や鞍の器具に、危ないところがありはしないかと調べてみて、気にかかることがあったならば、その馬を走らせてはならない。この心づかいを忘れない人を、馬の乗り手と申すのである。これが乗馬の秘訣である」と申しました。

Point: 初めて読む古文の内容を理解するためには!

① 現代では使われていない古語や現代とは意味が異なる古語があるので、学習した古語の意味は覚えておくとよいです。また、語注を参考にすることが大切です。

② 「なり、たり、けり、べし、ず、む」などの文末表現の意味を理解しておくるとどんな古文を読んでも、現代語訳がしやすくなります。

③ 主語や助詞の省略があるので、意味が分かる語句と語句とをつなぎながら、主語や助詞を補って現代語訳をします。※意味が分からなかった古語や現代語訳ができなかった箇所などは書き出し、解説などを参考にして確認しましょう。

本資料の活用の仕方

各問題について、次のA B C のいずれかの内容を解説しています。

- A 問題を解くときに必要な知識
B 問題を解くときの読み方や表現の仕方
C 国語科の学習に必要な考え方や学び方

五

複数の資料を目的に応じて読み、情報を整理して、それらを関連付けて、自分の考えを工夫して表現するとともに、自分の考えに対する理由を根拠を明確にして述べる力をみる問題

【資料】（裏）

2 F中学校のよさについてインタビューした内容

質問「F中学校のよいところはどこだと思いますか。」



笑顔で元気にあいさつをする生徒が多いところですね。毎朝、あいさつをするときに、皆さんはいつも私たちにあたたかく接してくれるので、参加するのが楽しみです。



全校で歌う伝統がずっと続いていくことです。よりいっそう一体感を感じられるような合唱を目指して、学校が一つになることを期待しています。



地域の方と花を植えるときなど、協力し合って取り組むことができる場所です。みんなで声をかけ合って作業する姿がとてもすがすがしいです。

【資料】（表）

F中学校生徒会キャッチフレーズを考えよう!

私が考えるF中学校生徒会キャッチフレーズ
※Aにはあなたが考えたキャッチフレーズを書きましょう。

A

1と2を読んで、F中学校生徒会キャッチフレーズを考えましょう。

1 特色ある生徒会活動

朝のあいさつ運動

地域の方が始めた声かけ運動に、生徒会が合流した。毎朝、地域の方と一緒にあいさつをしている。



全校合唱

昭和50年に生徒会役員が中心となり始まった。地域の方を招いての合唱コンクールに向けて、10、11月に、帰りの会後、練習している。



花いっぱい運動

生徒の呼びかけで始まった。季節ごとに地域の方と、学校の周りに花を植えている。



五 F中学校では、全校生徒で取り組んでいる生徒会活動のよさを伝える言葉として、今年度のF中学校生徒会キャッチフレーズを募集し、決めることになった。次は、募集にあたり配付された【資料】である。これを読んで、後の問に答えよ。

問題文から、①特色ある生徒会活動のよさを表現するキャッチフレーズを考えること、②第一段落には、そのキャッチフレーズにした理由を資料を基に書くこと、③第二段落には、キャッチフレーズの表現のよさを書くことをつかみます。

キャッチフレーズとは、「宣伝や広告などで、人の心を捉えるように工夫された短く印象の強い言葉」です。問題文に着目することで「生徒会活動のよさを伝える言葉」を考えればよいことがわかります。

キャッチフレーズを考えるときには、五七調や対句などのリズム、体言止めや倒置法などを用いて印象を強める表現の工夫をすることが大切です。ここでは、「生徒会活動のよさを伝える言葉」なので「……とは」や「……ですか」など、省略法や疑問の表現はふさわしくありません。

資料（表）、（裏）を読み、F中学校生徒会活動に共通するよさを探します。（表）からは、三つの活動はすべて地域の方と一体となって、継続して取り組んでいることを読み取ることができます。



左上へ

(裏)からは、地域の方が、F中学校は、笑顔で元気、あたたかい、伝統を守っている、合唱で一体感がある、協力し合える、声かけができる、すがすがしい、などのよい点があると述べていることを読み取ることができます。

キャッチフレーズは、資料から抜き出したF中学校のよさを表す言葉を組み合わせたり、その言葉から導き出されることなどを加えたりして考えます。

表現については、端的に印象を強める体言止めや倒置法、覚えやすくリズムのよい対句法や五七調などを取り入れます。

そのキャッチフレーズにした理由については、キャッチフレーズの語句と資料から抜き出したF中学校のよさを結び付けて述べます。(例)

F中・地域 つながる心 広がる笑顔
理由：F中学校と地域が一体となって取り組んでおり、心がつながっているからです。また、地域の方も、笑顔の生徒が多いところがあるので活動によって笑顔が広がっていると思うからです。

キャッチフレーズの表現のよさについては、表現の技法の名称とその効果を理解しておくことが大切です。そうすることで、キャッチフレーズの内容と様々な表現の技法との組み合わせが可能となり、表現の効果が一層高まります。

様々な表現の技法とその効果を理解しておきましょう。

問 キャッチフレーズを決めるにあたり、各学級で生徒一人一人が自分の考えたキャッチフレーズについて発表する。あなたならどのようなことを発表するか。後の条件1から条件4に従い、解答欄の最初と最後に示している文につながるように、発表原稿を書け。
条件1 文章は、二段落構成とすること。ただし、解答欄の最初と最後に示している文は、段落には含まない。
条件2 【資料】を参考に考えたキャッチフレーズを解答用紙のAに書いた上で、第一段落には、そのキャッチフレーズにした理由を、【資料】の中の1と2のそれぞれから必要とする情報を取り上げ、それらを結び付けて書くこと。
条件3 第二段落には、あなたの考えたキャッチフレーズの表現のよさについて書くこと。
条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、十行以上、十二行以内で書くこと。

Point: 複数の情報を関連付け、キャッチフレーズや標語など伝えたいことを短い言葉で効果的に伝えるためには!
① 何のために(目的意識)、誰に(相手意識)対して考えるのかを明確にし、内容や使用する語句、表現の工夫を考えます。
② キャッチフレーズは、短い言葉でわかりやすく、強い印象をもってもらうことが大切です。例えば、用いる表現の技法や表現の仕方は、体言止めや倒置法、リズムのよい五七調や対句法などが適切です。
※ ふさわしい表現の技法や表現の仕方は、目的や相手に応じて考え、内容や語句の使い方、表現の工夫やその効果について、読み手から助言をもらい、よい点や改善点を確かめましょう。